

研修と研究の一体化、支援・相談体制の充実をめざして

教育研究所は、平成 27 年 10 月の「教育に関する大綱」をうけて、平成 29 年 4 月に組織改編が行われました。名称も福井県教育研究所から福井県教育総合研究所と変わり、サイエンスラボや教育博物館を併設しました。研究所の組織は、3 部 1 室から、3 センター（教科研究センター、教職研修センター、教育相談センター）1 館（教育博物館）1 室（管理室）になりました。なお、先端教育研究センターが教科研究センターと教職研修センターに跨がる業務に関わっています。このように機能・体制を強化することで、研修、調査研究、相談等様々な角度から学校支援を行っています。

研究所全体として追究する研究テーマは、新学習指導要領が求めている「主体的・対話的で深い学び」をどう授業で実現するかという授業改善の在り方や、子どもたちの学びに向かう力を育む教育活動の在り方です。

教育総合研究所として第一歩を歩み始めた今年度は、これまでの成果と課題を整理し振り返りつつ、次年度以降の取組みにいかすという方針のもと、研修、調査研究、教育相談等に取り組みました。

教職研修センターでは、基本研修や職務研修を通して、キャリアステージに応じた資質能力の向上とマネジメント能力の育成、教職に関する専門性の向上に取り組みました。また、専門研修や訪問型研修と通信型研修、さらに遠隔授業・研修システムも活用して、教職員の実践的な資質や力量および教科等の実践力を高めてきました。

教科研究センターは、機構改革により、小中学校教科研究課（学力向上グループ、英語教育グループ）、高校教科研究課、理科教育課、新教育課題研究課という体制になりました。センターでは、教育課題を踏まえて先導的かつ実践的な調査研究を行い、学校現場の先生方の実践を支援する活動を積極的に進めてきました。また、サイエンスラボでは、実験配信や大学と連携した実験講座等に取り組みました。

先端教育研究センターでは、研修と研究の一体化を促進していきました。

教育相談センターでは、未然防止、早期発見、早期支援・対応、さらには、事案が発生した時点から事案の改善・回復、再発防止まで一貫した支援をすることをめざして、相談と研修の体制を整えました。チームでの支援を行うために、センターのスタッフに心と福祉の専門家を加えました。

また、併設されている教育博物館では、福井の教育の歴史、福井ゆかりの教育者、教科書の歴史等の展示のほか、なつかしの学び舎や企画展示コーナー等を通して、来館される方々に教育の歴史を紹介してきました。

この研究紀要には、各センター・博物館における研究の過程、成果と課題、今後の研究の方向性等について記載しました。

福井県教育総合研究所は、来年度以降も、教員研修システムの確立、研究機能の強化、教育支援・教育相談体制の充実、博物館企画の充実等に取り組んでまいりたいと考えています。この研究紀要について、皆様からの御意見をいただければ幸いです。

福井県教育総合研究所 所長 小和田 和義